

帝キネ芦屋現代映畫

脚色並監督者 大森 勝氏
撮影者 立花 幹也氏

主要校割

藝妓 平龍	歌川 八重子嬢
同花龍	澤 らん子嬢
井口 義雄	里 見 明氏
柳瀬 克己	藤間 林太郎氏
岡田 重吉	淺野 節氏
女 將	園 千枝子嬢
平 どん	中村 獅加平氏

〔略筋省略。〕

流行歌「ハートソング」を取入れた帝キネ得意の小唄映畫であるが小唄と物語との連絡がよく付いて居ないので小唄映畫としての價値は至つて低いものになつて居る。物語も前半はこゝろした物出らしく運んで居るが後半は余りお芝居過ぎて好意が持てなかつた。然し後半の追かけや柳瀬の突然の歸朝がヤンヤの大受けだから製作者の狙ひ所は見事當つて居る譯だ。歌川八重子嬢の光龍と澤らん子嬢の花龍の共演に對する里見明氏の英雄の助演は既に一種のなまめかしき情緒を織り出して居る。各社を通じてこれ程花柳情話に絶好な顔振れば他にあるまいと擔いで置く。吉野川の舟遊びやその他のロケーションが美しい。

山本 綠葉

興行價値——「ハートソング」入りの花柳情話レコード吹込みなどで宣傳が利いて居る。(七月廿七日 神戸相生座封切)